



海老沼小だより

～ かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校 ～

平成29年10月31日
11月号
さいたま市立海老沼小学校

“海老沼小は日本一いい学校” 感動いっぱい10月

校長 森 裕 子

10月は、寒暖の差が激しかったり、何日も雨が続きたり大きな台風が来たりと悩まされることも多かったのですが、それも忘れてしまうくらい、たくさんの“感動”をもらっているうちにあっという間に過ぎていきました。まずは、9月最後の日に開催した運動会。一人ひとりが自分の種目や係の仕事に力を尽くす姿。クラスや学年で協力して表現（ダンス）の種目を見事に演じきった場面。応援団・団長を中心に学年の縦割りで赤・青・黄それぞれの組が心をつ一つにして燃えた瞬間。ほのぼのさせられたり、涙が出そうになったりしました。それは地域、保護者の方々も同じだったようで、10月に入ってから賞賛や感謝の言葉が寄せられました。「自分の子が出ていない種目や他のお子さんの姿にも心が惹かれ、本当に楽しくて感動的ないい運動会でした。」と書かれたお手紙もいただきました。

運動会の振休明けには、10月の講話朝会がありました。私は、保護者や地域の方々からたくさんほめていただいたことを伝えるとともに、先生方の思いや陰で支える努力について話しました。1年の先生は、いろいろ考えたダンスのフォーメーションの最後を決めるためにラストで投げるピンクのリボン全員分作りしました。2年の先生は、超ハードなシャケダンスを2年生にぜひ踊ってもらいたいと4月から決めて準備に取りかかりました。3年の先生は、よさこいエイサーを3年生の一番の魅力が出るように軽快な動きをたくさん付け加えました。4年の先生は、子ども達が考えたオリジナリティあふれるダンスにしようとアドバイスやチャンスがたくさん与えていきました。5年の先生は、ソーランのすばらしい踊りが最高にひきたつようにと前半の海の表現を凝りに凝りました。6生の先生は全員で心をつ一つにして組体操を成功させるために子ども達と真剣に向き合い最後の最後まで練習を重ねました。なかよし学級の先生は、どの子も一緒に輝けるように、つきっきりでわかりやすく一生懸命教えていきました。この他、担任をしていない先生方も学年の練習に入って励ましたり手伝ったりしました。保健や給食の先生は、子ども達の安全や健康を管理し、校務員さんは草取りやおそうじを毎日やって運動会が気持ちよくできるように準備しました。「皆さんを支えてくれた先生方にお礼を言いましょうか」と私が呼びかけると、全校の子ども達の「ありがとう」が体育館に響きました。

最近では、運動会を1学期に開催する学校が増えていますが、私は今回「運動会はやはりこの時期がいい」と確信しました。その理由は、主に1年生と6年生にあります。1年生は、小学校に入学してちょうど半年、見違えるような成長を遂げ、それを顕著に示すことができるからです。保護者の方もお子様の成長に目を見張られたことなのでしょう。そして6年生は、最高学年として半年後には小学校を巣立っていくという思いも込めて、小学校生活の集大成ともいえるべき気合の入った姿を見せてくれるのです。今年、どちらも感動的で胸が熱くなりました。

10月には、6年生と修学旅行で日光へ、1年生とは遠足で東武動物公園へ一緒に行きました。運動会で見事やりきった経験や充実感が生きていて、どちらの学年も仲間と協力して自分達の活動を積極的に進めていました。そして、笑顔いっぱいのいい顔をして楽しんでいました。標題の「海老沼小は、日本一いい学校」とは、遠足から帰ったある1年生が、おうちの方に遠足がいかにか楽しかったかを話した後で言い添えた言葉だそうです。本当にうれしいことです。しかし、あまりのほめ言葉に「こんなふうに感じてくれる子ども達の思いを絶対に大切にしなければならない」という思いにもかられました。「子ども達が心身共に健康で、日々、仲間と共に悩んだり笑ったりしながら自分の力をどんどん伸ばしていける学校生活を児童全員に送らせることが学校の使命だ」と改めて肝に銘じています。

一年の3分の2が過ぎようとしています。間もなく、地域、保護者の皆様に本校の教育活動についてのアンケートをお願いいたします。さらなる海老沼小の発展に向けて、忌憚のないご意見を頂ければ幸いに存じます。併せて、今後も一層のご支援をよろしくお願いいたします。